

平成25年度 京都市歴史資料館評議委員会議 議事録

- 1 日 時 平成26年3月20日(木) 午後3時05分～4時45分
- 2 会 場 同志社新島会館 別館2階 会議室
- 3 出席者 評議委員：鈴木久男, 高久嶺之介, 龍村光峯, 田端泰子, 野口実, 藤瀬祥子, 丸山宏, 鈴木ちよ, 山口正弘
資料館：井上館長, 影近次長 他
- 4 欠席者 評議委員：上原恵美
- 5 傍聴者 なし

6 議事運営

(1) 開会

京都市市民参加推進条例第7条により本会議及び議事録等について公開とすること、昨年来の本市全体での審議会等の見直しにより会議設置根拠等を変更したことを説明。

(2) 開会あいさつ

(3) 出席委員・当館説明者紹介

(4) 平成25年度事業報告説明(資料3参照)

テーマ展として「大塚コレクション 古地図の世界」, 「京都を描いた書物—江戸時代の「京都本」—」, 「新・京のかたち5 洛南の光景—伏見・淀と宇治川—」, 「愛宕信仰と山麓の村」を, 特別展として「重要文化財岩倉具視関係資料特別公開「岩倉具視の幕末維新」」を開催したこと, 及びそれぞれの展示の概要, 特徴等について報告。

また, 展示に合わせた講座, 大文字五山送り火当日の夏休み親子歴史教室, 岩倉具視特別展開連で岩倉家第16代当主岩倉具忠氏に講演いただいた講演会, 開館当初から毎年開催している古文書講座を開催したほか, 京都アスニー及びアスニー山科との協力講座を開催したことなどを報告。

このほか, 平成25年度は, 「叢書 京都の史料」第13回配本として「京郊農村の近代 葛野郡岡区事務日誌」をまもなく刊行すること, 京都市政史編さん事業では第3巻「財政のあゆみ 市政史年表」の原稿作成を行っていること, 対岳文庫展示室の展示協力を行っていることなどを報告。

続いて, 歴史資料館の利用及びホームページアクセスの状況について説明。

展示来館については, NHK大河ドラマの効果及び同時代に活躍した岩倉具視の展示を同じタイミングで実施できたことなどにより, 昨年度と比較して72%増加した一方で, 資料閲覧と歴史相談が減少傾向にあること, ホームページへのアクセス数が30%減少していることなどを説明。

(5) 質疑応答

[評議委員] 民間から資料預入の申出はあると思うが, 収蔵庫の状況はどうか。

[資料館] 開館31年目となり収蔵庫は満杯の状況。古文書は多少の圧縮ができるので詰めれば少し余裕はあるが, 屏風等の立体のものを含めると, もう置けない状況になりつつある。

[評議委員] 単年度では無理なので, 長期的に, 収蔵庫スペースや整理のための人員が必要ということを書いていくべき。

[資料館] 統廃合された学校跡地や区役所跡地の利用にも手を上げているが難しい。備蓄倉庫を求めている消防局とも連携を模索していきたい。

(6) 平成26年度事業計画説明(資料4参照)

特別展として「叢書京都の史料刊行記念「桂川西岸の村社会」」, 「第42回式年遷宮記念「重要文化財 賀茂別雷神

社の古文書」を、テーマ展として「蛤御門の変と「どんだん焼け」—あれから150年—」,「新・京のかたち6 都市計画の20世紀」を開催することを報告。また、できるだけ多くの人々に参加してもらえるように工夫した古文書講座を開催するほか、展示と関連する歴史講座を当館だけでなく西京区や上賀茂神社で計6回開催すること、京都アスニー・アスニー山科との協力講座を開催することなどを報告。

また、「叢書 京都の史料」第14回配本の編さんなどに取り組むほか、「京都市政史」の最終巻として第3巻「財政のあゆみ 市政史年表」を刊行し、市政史編さん事業を終了すること、さらには、京都文化博物館との共催で平成27年度特別展「実相院門跡一美の文化」の開催に向けて取り組むことなどを報告し、今後も府市でそれぞれの得意分野を生かした連携や、区役所等での館外事業の開催により新たな利用者の開拓などを行っていききたい旨説明。

(7) 質疑応答

[評議委員] 桂川西岸の展示は地味だが見識のある企画。榎原には明治20年代の道路景観がそのまま残っている。地味な内容になると思うがどのように宣伝していくのか。

[資料館] 西京区役所での講座は市民しんぶん西京区版やホームページで広報するが、80名ほどの会場での開催。榎原公会堂での講座は、地元榎原の方々に、事務日誌にはこんなことが書いてあるということを知ってもらおうということで、地元の会長さんに地域での広報をお願いしている。

[評議委員] 京都アスニーとアスニー山科の間でやっているように、榎原の講座を歴史資料館など他の場所でも見られるようにすればよい。もっと大きな規模での実施となる。

[資料館] 西京区役所と榎原公会堂での講座の内容は、ある程度は共通したものとなると考えられるが、委員が言われるようなことも検討していきたい。

[評議委員] 各地元には歴史的なものが集積されているのに、区に歴史資料館的なものがなく、地域振興課が担当せざるをえない状況がある。歴史資料館の活動にフィードバックするようなことはできないものか。できれば区ごとに歴史資料館の分館を置いていただきたい。そうすれば資料の保存なども可能。また、京都は考古学と文献史料の研究の両面から考察できる、世界的にも稀有なフィールドである。考古資料館との連携を図ることで、収蔵スペースの問題についても改善を図ることができるのではないか。

[資料館] 伏見区は広い地域。「史料京都の歴史」では伏見の市街地のみでの調査で終わってしまった。こうした広域的な行政区の史料調査をどうしていけばよいのか課題である。考古資料館との間では人的な交流は従来からあるが展示等での組織的な連携は、「甦る平安京」以降はない。検討の必要がある。

[資料館] 類似施設との間での連携、役割分担を図っていきたい。平安京復元模型の製作から20年を経過しており、歴史資料館としては考古資料館や京都文化博物館などと連携しながら市民に対する働きかけを進めていきたい。ただ具体的内容についてはお時間を頂戴したい。

[評議委員] 収蔵庫のスペースの問題はこういう会議の場で連呼していく必要がある。先ほどの講座の件も同様。また、講座を動画で積極的に公開していけばホームページのアクセス数も伸びてくる。大学や他の博物館などもそうした工夫をしている。大文字の講座なども後で見られるようにできればよい。

[評議委員] せっかくの講座も全部は必要ないがビデオに撮っておいて、来館時に見られるようにしてはどうか。

[資料館] 収蔵庫の問題は毎年提起し続けていく。ホームページの動画配信については、近年そのようなシステムが充実してくる中で、積極的に取り組んでいく使命があると考えている。

[資料館] 収蔵庫のことは、耐震補強のことも考えることが必要。巨大地震への対応として集中か分散か。予算的なことも含めて課題である。

[評議委員] 京都市政史の編さん事業が来年度終了する。そもそも京都市は扱う範囲が広すぎて、これだけのことをするには人が足りない。市政史終了後に予算と人員を取られないようにする方法、お考えであれば聞きたい。

[資料館] 市政史完了後の館のあり方、悩ましい問題である。資料館は地味ではあるが、存在意義がある組織。資料館ができた当初、市民の方々に京都の歴史を勉強してもらおう場として考えていたように、研究閲覧室の資料をできるだけ多くの方々に見てもらいたいという思いがある。と同時に動画配信など幅広く存在を知ってもらう取組を行っていきたい。

[資料館] 明治以降の資料をどう扱っていくか。府立総合資料館では行政文書を扱うが、それと同じにはならない。収蔵の問題もあり、行政文書をどう扱うかは今後深めていくべき課題と考えている。

- [評議委員] 京都市の行政文書はマイクロ撮影しているが、今の技術はそのデータをチップに収めることができ、実物を収蔵できなくとも、情報を見ることは容易にできるようになっている。資料館独自で考えるのは大変だから、市情報化推進室と話をし、市の共通ルールを借りてきて、資料館の収蔵について考えていってはどうか。
- [資料館] 現在、情報公開のルールに則って公開しているのが現状。個人情報の公開は国でもルールを設けている。そうした問題も含めて、データは情報公開コーナーで公開するが原文書は資料館で公開するなど、どう対応するか文書担当と協議を進めている。
- [評議委員] すべてを自らで検討、整備するのは大変。どうすれば他の部局の仕組みを活用して楽にできるか検討すればよい。
- [評議委員] 考古資料の温湿度管理はさほど厳密ではないが歴史資料館での収蔵物管理はどのように行っているか。
- [資料館] まず第一収蔵庫に仮置きし、燻蒸したうえで保存用の収蔵庫に入れる。収蔵庫は事務室とは別に温湿度管理を行っている。
- [評議委員] 記録資料、写真資料をどうするか。デジタル化は計画的に進めているか。
- [資料館] 古文書は撮影してきているが、ガラス乾板等の資料の複写保存はできていない。現状、原資料の保管をきちり行うことが第一の使命であると認識しており、それ以降の活用、研究については十分に検討できていない。歴史的公文書、中世・近世の資料の保存についても、人材の確保の点も含め、検討していかなければならない。
- [評議委員] 物事を行ううえで大事なものは人材の確保。そのためにはお金が必要で、市民の立場からすれば、財政は本当に必要などころに使ってほしいと思う。歴史は一度途切れてしまうとどうしようもない、それを行政がいかにか理解してくれるかということが重要。現実問題としてお金の問題は大きい。以前から文化博物館と歴史資料館がなぜ一緒にならないのかと考えていたが、府と市ということで組織が違うということがあるのかなと思った。今後、歴史に興味のある人間がこのような施設の存続、充実について考えていくとともに、PRしていくことが必要。また他の博物館や美術館は有料なのだから、歴史資料館も有料化について考えてみてはどうかと感じた。
- [資料館] ご存知のように、当館は規模が小さく、はたしておいくら頂戴できるものかということもあり、今の状況となっている。
- [評議委員] 今日はいろいろなことを勉強させてもらった。展示や講座の内容を決定する場合、節目の何年というのを基準に決めることは多いと思うが、他にどのようなことを考慮するのか。また、歴史相談にはどんな相談が寄せられているのか。
- [資料館] 展示内容については、大きな施設とは異なり、歴史資料館は規模が小さいがゆえに職員自らで決めている。歴史相談の内容は千差万別で、京都の原始・古代から現代に至るまで、あらゆる質問、意見が寄せられるが、美術工芸品・出土品の鑑定等については他館を紹介している。
- [評議委員] 三条京阪近くで閉校となった有済小学校だが、伝統もあり便利などころにあるので、昔の工芸品の収蔵・展示スペースとして整備してはどうか。昨年の岩倉具視の展示に関連して、歴史愛好家の多くの方が感激していたと思うが、歴史上有名な岩倉具視の生々しい話が聞けて非常に親近感を覚えることができ、岩倉先生の講演会はとてもよかった。そんなふうには歴史的なものと身近に触れ合える施設として整備できればよいと思う。
- [評議委員] 織物関係でも、仕事がないためにどんどん職人がいなくなっており、どうやって技術を継承していくかという課題がある。西陣織には天井の高い学校のようなスペースが適しており、地域の学校跡地を活用して職人の技術を伝承していくための施設として整備できないものかと思っているがなかなかうまくいかない。今は芸術文化振興基金等を使って、復元という形で仕事を作り細々と続けている状況。お金は何とか集まるが、職人の技術の継承のためには仕事が必要で、式年遷宮のような機会が短い周期であればよいのだが。
- [評議委員] 古美術商が持っている作品を持ち寄り、「まちなか美術館」というイベントを行った際には、若い方たちが関心を持ってたくさん集まってくださった。学校の教科書でわかることとは違って、古文書や歴史資料の展示は、人物が残っていた歴史の積み重ねを肌で感じることができる。
- [資料館] 歴史資料館としても、古文書だけでなく、実物の歴史資料も見ていただくことによって、幅広い年代の方々にご利用いただけるよう、京都府や考古資料館とも協力してやっていかないといけないと思う次第。

(8) 歴史資料館運営予算について（資料5参照）

歳出・歳入予算の概要を説明。歳出では、概ね一定の金額に若干のプラスアルファがある状態。25年度は経年劣化したマイクロフィルムの修復に着手した。史料叢書の刊行及び市政史編さんにおいては、印刷費等により定期的に経費の増減がある。歳入は、書籍の販売、資料コピーや古文書講座受講料等によるもの。

(9) 閉会あいさつ

本日頂戴した様々な分野からの様々な貴重な御意見を極力生かす方向で、資料館としての行動を進めてまいりたい。今後ますます皆様のお力添え、御指導、御鞭撻をよろしくお願い申し上げたい。